

番号	部門テーマ名 (日本語)	部門テーマ名 (英語)	主オーガナイ ザー(氏名)	主オーガナイ ザー(所属)	主オーガナイ ザー(e-mail)	部門テーマ概要(日本語)	部門テーマ概要(英語)	分野区 分	ポスター発 表
1	巨大防潮堤は 人々を守るか —国土強靱化 の意義とは—	Can huge coastal levee protect people? —Sense of national resilience—	林良嗣	名古屋大学大 学院環境学研 究科	yhayashi@genv.na goya-u.ac.jp	国会に国土強靱化基本法案(強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法案)が提出される一方、東北地方一帯(東日本被災地)では従来高さの防潮堤を大幅に超える10~15mの防潮堤に切り替えられようとしている。この防潮堤は果たして人々を守るために有用なのか、有害なのか。インフラによるミティゲーション(回避)と土地利用によるアダプテーション(適応)にどのようなバランスで資金を投じるべきなのか。異なる意見を持つパネリストにより意見を戦わせ、地域防災・減災政策の向かうべき方向性を探る。	With the enforcement of “Law of Land Resilience”, coastal levees in Great East Japan (earthquake-hit region) will be raised from a conventional scale, 5 or 6 meter-high, to a much larger scale, which is 10 or 15 meter-high. In this session, we will discuss such issues like whether a larger levee is useful in protecting people, as well as investment balance in infrastructure constructing and land use adaptation. With different ideas from the participants, we hopefully to figure out the direction of disaster prevention and mitigation policy.	集中討 議分野	希望しない (論文発表 のみ)
2	ITSによるイン フラ・イノベー ションに向けて	Innovation in transport infrastructure with ITS	清水哲夫	首都大学東京	t-sim@tmu.ac.jp	ビッグデータやオートパイロットといったイノベーションの研究領域が登場し、再びITS研究が輝きを見せ始めようとしている。一方で、その基礎となるインフラ本体については、それらの進化と比べて一歩も二歩も遅れていると言わざるを得ない。防災・減災、被災地復興、維持管理・インフラ更新、オリンピックへの対応に向けて、土木学会によるITS研究はどのような進化を見せるべきか、圧倒的なインフラのイノベーションを起こすにはどんな発想が必要か、各界からの専門家による話題提供と対話を通じて掘り起こしたい。	The objective of this special session is to discuss on what kind of innovation in ITS research and development should be, and how ITS should contribute to the innovation in transport infrastructure. Followed by deep discussion, several guest speakers from various academic and practical fields will provide advanced knowledge on ITS research and development.	集中討 議分野	希望しない (論文発表 のみ)
3	自転車空間研 究の外部評価	external evaluation of the bicycle space research	金 利昭	茨城大学	tkin@mx.ibaraki.ac jp	自転車に関する研究小委員会は、「自転車空間研究小委員会」として3年間、続く「自転車政策研究小委員会」として3年間、通算して6年間に亘って全国の研究者、行政、民間コンサル、市民ら50人をメンバーとして研究を行ってきた。この研究成果は、全国各地で進められてきた自転車通行環境整備の現場で具体化されるとともに、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン(2012年)」として結実した。そこで本セッションでは、これまでの自転車研究の成果と到達点を確認し、これを外部・他分野の視点で点検評価し、これからの自転車研究の課題を討議する。	The subcommittee of bicycle space and policy has been studying for 6 years. The research results of the subcommittee contributed to the guidelines for the bicycle facility and bicycle network that was published last year. In this session, we will evaluate our research results and discuss the research issues in the future.	集中討 議分野	希望しない (論文発表 のみ)

番号	部門テーマ名 (日本語)	部門テーマ名 (英語)	主オーガナイ ザー(氏名)	主オーガナイ ザー(所属)	主オーガナイ ザー(e-mail)	部門テーマ概要(日本語)	部門テーマ概要(英語)	分野区 分	ポスター発 表
4	新たな時代のバ リアフリー整備 の理念構築 2 ー移動が保障さ れる生活環境を 考えるー	Concepts on Accessibility Improvement for next decade with the rights of personal mobility and independent living	横山 哲	株式会社 ドー コン 交通部	ty795@docon.jp	高齢者や障害者の移動・交通環境は、2000年の交通バリアフリー法の策定以来、都市化が進んだ場所でのバリアフリー化はそれなりに進捗している。しかし、郊外部や農漁村部村では進捗していないところも珍しくないという格差が生じている。一方、障害者差別解消法(障害に基づく差別解消の促進に関する法律)や交通政策基本法の成立し、制度の上でも利用者のニーズを充足させる責務を認識した上での対応が求められている。本SSでは、格差を是正するための緊急的な対応策の必要性を提起すると同時に、あらためて恒常的な改善策(本来の意味でのUD)とそれを実現するための手法について議論したい。	The traffic environment for the elderly or disabled has been improved in urban areas since the Barrier-Free Transportation Act. was enacted in 2000. In some suburbs or rural areas the environment has not been improved which has led to a disparity. The enactment of The Legislation of Affirmative Action for Persons with Disabilities or The Basic Law on Transportation Policies will address this disparity by calling for new measure, recognizing the engineer's responsibility to meet the needs of users. While arguing the need for urgent measure to reduce the disparity, this SS will again discuss permanent measure and how to realize them.	集中討 議分野	希望しない (論文発表 のみ)
5	地区交通研究に おける関西の先 駆的研究とその 背景	A Lecture on Pioneer Studies about Residential Streets	寺内義典	国士館大学理 工学部	terauchi@kokushi kan.ac.jp	昭和55年の阿倍野区長池町で整備された「コミュニティ道路」を皮切りに、関西で多くの先駆的な取り組み事例が展開された時代があった。大阪・神戸の一带で多くのコミュニティ道路が整備され、また、コミュニティ道路からロードピア、コミュニティゾーンと施策が展開していくなかで、関西はこれらの取り組みの先進地であった。本セッションでは、これらの関西での事業展開から生まれた研究や、当時の背景、課題について先駆的研究者から話題提供をいただくことで、生活道路研究に既往の成果を継承し、さらなる発展を目指す討議をおこなう。	Since the first "Community Road" in Japan was opened in 1980 at Nagaike, the Kansai region was a pioneer in application of traffic calming. This session focuses on pioneer studies and activities at the Kansai, and gives a lecture about this situation at the time.	集中討 議分野	希望しない (論文発表 のみ)
6	首都圏における 国土強靱化、国 際競争力の向 上 ー東京が強い都 市であるために ー	The resilience and Improvement of international competitiveness in the Tokyo metropolitan area. "We are aiming to Tokyo is a strong city"	浜田 誠也	一般財団法人 道路新産業開 発機構	hamada@hido.or.j p	道路都市再生部会(事務局:(一財)道路新産業開発機構)では、これまで少子高齢化や人口減少、環境、地方衰退等の課題に対し、活力のある都市の復活について検討してきた。今回は、国土強靱化に対応し、今後の東京のあるべき姿や、社会システムの構築・インフラの整備のあり方を検討している。本セッションでは、防災の観点から「持続可能な社会インフラの整備」、国際競争力強化の観点から「外国人の訪日促進」「移動快適性」等をキーワードに、「強い都市・東京」に資するインフラ整備や施策のあり方等を提案するものである。本セッションは、提案内容を多くの方と議論し、ビジョンの熟度をさらに高めることを目的とする。	Road and urban regeneration Group: (Secretariat/ Highway Industry Development Organization), we studied the resurrection of the city with a vitality to the challenge population decline and aging, environment, rural decline, etc., We propose the way of the measures and infrastructure development to contribute to the "Tokyo is a strong city" in this session. Keywords "visit the promotion of foreigner" and "sustainable infrastructure" and "Comfort of movement", etc., We want to further enhance the maturity of vision to discuss with people of many proposals in this session.	速報的・ 萌芽的 分野	希望しない (論文発表 のみ)